# プレス発表資料

令和 7 年 6 月 12 日
秋　田　大　学

## クマによる防御姿勢は有効か？

## ―秋田県令和 5 年度データの解析―

○　**概要**

秋田大学（学長：南谷佳弘）大学院医学系研究科医学専攻機能展開医学系・整形外科学講座の石垣佑樹医員、木村竜太助教、宮腰尚久教授らの研究グループは、秋田県生活環境部自然保護課鳥獣保護管理チームツキノワグマ被害対策支援センターと共同研究により、ツキノワグマと遭遇した際に「うつ伏せによる防御姿勢」で身を守ることで、重症を防げる可能性があることを明らかにしました。この成果は、「臨床整形外科」7 月号に掲載されます。

○　**研究の背景**

令和 5 年度に全国で発生したクマによる人身被害は 198 件（219 人、うち死亡 6 人）で、統計が残る平成 18 年以降で過去最多を記録しました。なかでも東北地方、とくに秋田県では被害が深刻で、県が把握しただけでも 70 人が被害を受け、過去最多となりました。

クマと至近距離で遭遇した際には、顔を伏せてうつ伏せになる防御姿勢をとることが勧められています。クマによる攻撃を完全に避ける方法は確立されておらず、重症となりやすい顔面、頭頸部、体幹部（とくに腹側）への負傷を避けることが重要とされています。

本研究チームは、実際の救急医療の現場で、うつ伏せによる防御姿勢をとったことで重症化を免れた事例を経験しました。しかし、うつ伏せによる防御姿勢の有効性について解析された報告はこれまでになく、実際の有効性についてはまだ不明な点が多いです。また、実際に重症化した場合の後遺障害や社会復帰の状況は、自治体が独自に把握することが難しく、詳細が不明でした。

そこで今回、令和 5 年度に秋田県内で発生したクマ外傷症例を対象に、受傷部位や障害の程度を分析し、うつ伏せの防御姿勢の有効性と、病院受診後の経過を調査しました。

左：丸まった防御姿勢、右：体を伸ばした状態での防御姿勢
いずれも顔面、頭頸部、腹部の受傷を防いでいます

○　方法

令和５年４月１日～令和６年３月 31 日までに、秋田県内でクマに襲われて医療機関を受診した方を対象とし、秋田県が保有する「令和５年度クマ外傷人身事故情報」と各医療機関のカルテ情報を連携させて解析しました。

○　結果

令和５年度にクマによる被害を受けたのは 70 人で、県内 14 病院を受診していました。重症者（多発外傷、全身麻酔を要した外傷、指や手足の切断）は 23 人でした。被害にあった方のうち、防御姿勢をとることができたのは７人（全体の 10%）で、この７人には重症者はいませんでした。また、受傷場所については「里地」や「居住地」といった人の生活圏内が最多で、全体の 60%を占めました。

○　成果の特筆すべき特色・社会貢献

本研究は、クマに遭遇した際にうつ伏せによる防御姿勢をとることで、重症化を防いでいる可能性があることを、実際のデータに基づいて示した初の報告です。秋田県では毎年クマとの遭遇被害が発生しており、2025 年も多くの目撃情報が寄せられています。人とクマの不意の接触が避けられない中で、「いざという時の対応」を知っておくことが重症化を防ぐ、そして命を守るために重要です。本研究の成果は、地域住民への啓発や、被害の予防・軽減策の一助となることが期待されます。

○　成果の特筆すべき特色・社会貢献

石垣佑樹、木村竜太、宮腰尚久．クマに対する防御姿勢は有効か？-秋田県令和５年度データの解析-．臨床整形外科

【問い合わせ先】
（研究内容）
秋田大学大学院医学系研究科
整形外科学講座
医員　石垣　佑樹
電話：018-884-6148
Email：yishigaki@med.akita-u.ac.jp
（その他）
秋田大学医学系研究科・医学部総務課長　小柳
電話：018-884-6005／FAX：018-834-8619
Email ： m-soumu@hos.akita-u.ac.jp